



# 大西さとし 市議会だより

2012.10  
No.006

## 高松市議会

### 平成 24 年度 第 4 回 (9 月) 定例会の報告



高松市議会は、9月7日から9月24日までの18日間、平成24年第4回定例会（9月議会）を開催し、平成24年度一般会計補正予算など27議案を可決し、陳情1件を継続審査としたほか、人事案件9件に同意しました。

また、私が今年度より所属します、政策・戸籍・年金・財政・税務・人事・広聴広報・消防などを所管する、総務消防常任委員会では、委員会付託を受けた「高松市火災予防条例の一部改正について」「高松市災害対策本部条例の一部改正について」など13議案について審議を行った結果、原案可決といたしました。

今後とも、みなさまの声を市政に反映するため、全力で取り組む所存です。引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。

大西 智



#### 瀬戸内国際芸術祭 2013

会 期 2013年3月20日 | 春分の日 | ~4月21日 | 日 |  
7月20日 | 土 | ~ 9月1日 | 日 |  
10月 5日 | 土 | ~11月4日 | 月 |

会 場 高松港周辺、女木島、男木島、大島、直島、豊島、小豆島、犬島  
沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島、宇野港周辺

主 催 瀬戸内国際芸術祭実行委員会

会 長 浜田恵造（香川県知事）

総合プロデューサー 福武總一郎（公益財団 直島福武美術館財団理事長）

総合ディレクター 北川フラム（女子美術大学客員教授）

## 第4回(9月)定例会 市民フォーラム 21 質問の概略(抜粋)

### ◆財政問題について

#### ○平成23年度一般会計予算の受け止め

＜答弁者：大西市長＞

平成23年度は、私が再び市民の皆さまのご信任をいただき、高松市長として二期目をスタートした年であり、「マニフェスト2011」に掲げる政策の実現を図るべく、第二期まちづくり戦略計画とも連動させながら、本市のまちづくりに欠かせない施策・事業の着実な推進に取り組んだものである。

その結果、一般会計決算は、最大の規模を記録した前年を若干下回るものの、ほぼこれに相当する決算規模となった。

歳入においては、市税の4年ぶりの増や、地方交付税の増額などにより歳出財源を確保し、歳出全般にわたる経費節減の努力ともあいまって、決算収支は黒字が拡大し、基金残高も増加している。

また、臨時財政対策債を除く市債の現在高は、1,000億円を下回る水準となり、プライマリーバランスも8年連続の黒字堅持となったことから、本市財政の健全性は一定程度、確保できていると考えている。

しかしながら、自主財源比率は、19年度に62.2%であったものが、23年度には50.5%と、10ポイント以上の落ち込みとなっている。

本年度の市税収入についても、固定資産税は、23年度決算比較で大幅な減収見込みであることに加え、昨年来の電力供給の問題に関連し、法人市民税が当初予算を下回る見通しとなるなど、楽観できる状態にはない。

#### ○平成25年度の予算編成における基本的な考え

＜答者弁：大西市長＞

歳入の根幹をなす市税収入は、依然として厳しい状況が継続すると考えられ、現在の国政の状況を勘案すると、国における地方財政対策の動向は予測し難く、財源確保の見通しは、予断を許さないものと認識している。

一方、歳出面では、本年度スタートさせた第三期まちづくり戦略計画等の着実な推進を始め、防災や少子高齢化対策など、喫緊の課題への迅速な対応に、財政需要の増大は避けられない状況である。

このことから、25年度の予算編成に当たり、国の来年度における地方財政対策の動向などを的確に見極めるとともに、市税をはじめとする、あらゆる財源の捕捉とその確保に徹することが必要である。

また、限られた財源について、適切かつ効果的な配分を図るため、各版の施策・事業について事業仕分けの考え方や、包括外部監査の結果等を踏まえ、厳しい選択を行うとともに、市民の理解と協力が得られるよう、情報公開の徹底と説明責任のまっとうに努め、将来にわたり持続可能な健全財政の確立に全力を挙げて取り組む。

## ◆教育問題について

### ○大津市の中学校のいじめ問題に対する受け止め

#### <答弁者：教育長>

大津市での事件が連日マスコミで報道され、いじめが大きな社会問題となっているが、いじめの問題は、学校・家庭・地域の在り方と深く関わる問題であり、子供を取り巻く環境が大きく変化していることも要因の一つであり、子供たちの生命・身体を守るべき大人が、目の前の子供としっかり向き合っているのかを、今、改めて問われているのではないかと認識している。

学校においては、個性や差異を尊重する態度や、その基礎となる価値観を育てること、また、かけがえのない生命、生きることの素晴らしさや喜びなどを指導することが求められている。

一方家庭においては、深い愛情や精神的な支え、信頼に基づく厳しさ、親子の会話やふれあいの確保が求められており、また、地域では、子供の健やかな成長を見守り、社会のルールを教えながら、地域の子供を地域で育てることが求められている。

このようなことから、学校・家庭・地域に関わる大人が、真摯に子供の教育や子育てに向き合い、それぞれが一体となって、その責務を果たすことが、何よりも重要であると認識している。

### ○本市の暴力行為やいじめ・不登校等の状況と、これまで取組んできた対策による成果と課題について

#### <答弁者：教育長>

昨年発表された「平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、本市の「暴力行為」の発生件数は、小学校で21件、中学校で277件であり、小学校は前年比約66%、中学校では56%と、小中学校ともに前年より大きく減少している。

「いじめ」については、小学校31件、中学校87件であり、小学校は前年と同数であるが、中学校では、前年比約56%に、大きく減少している。

「不登校」については、小学校77件、中学校277件であり、小学校は前年比約95%、中学校は約103%であり、小中学校とも横ばいの状況である。

取組みの成果と課題は、成果としては、小中学校の暴力行為、中学校のいじめが大きく減少しており、要因としては、教職員の粘り強い指導とともに、小中学校に配置した「ハートアドバイザー」や「スクールカウンセラー」「特別支援教育サポーター」等の有効活用がなされた結果であると考えられる。

一方課題は、特定の子供が問題行動を何度も繰り返していること、特別な配慮を必要とする子供や、家庭との連携が困難な子供が増えていることが、どの学校においても抱えている大きな課題である。

## ◆子育て支援策について

### ○放課後児童クラブの事業における、利用状況および空白学区の現状と今後の対策について

#### <答者弁：健康福祉局長>

放課後児童クラブ事業の延長利用児童数、夏季休業中のみ入会した児童数、休会制度の利用状況については、4月から8月末までの延長利用数で延べ287人、また、夏季休業中の休会制度の利用者数は356人であった。

次に、空白学区の現状は、現在、休校中の小学校区を除き、東植田、上西、塩江、安原、庵治第二の5校区であり、放課後児童クラブ、学童保育のいずれも未実施となっている。

今後の対策として、現時点では、未実施校区において開設要望がないことから、塩江校区は小学校の統合に合わせ、ニーズ調査を行うこととしており、その他の校区についても保護者ニーズを踏まえて適切に対応していく。

# 活動日記



7/6 木太保育所 夕涼み会



7/7 四電技術コンサルタント労組大会



7/14 屋島活性化シンポジウム



7/21 四国航空労組大会



7/23～25 富士政治大学校 (静岡)



8/5 高松市事業仕分け



8/8 木太町あまから水祭り



9/2 民社協会 都道府県民社協会  
意見交換会 (東京)



9/3 高松市香南支所  
香南コミュニティセンター落成式



9/26,27 地方議員研究会主催  
議会改革集中講座 (大阪)



9/28 四国ドック労働組合  
第52回定期大会



9/29 UI ゼンセン同盟香川県支部  
第11回定期総会

発行:大西さとし後援会

<http://www.ohnishi-satoshi.jp>

◆後援会連絡所

〒760-0050

高松市亀井町 7-9 高松電気ビル 7階

TEL(087)837-2777 FAX(087)837-8783

◆後援会事務所

〒760-0080

高松市木太町 1849-1-602

TEL 090-8696-1730

